

フューチャー イノベーション フォーラム

活動報告 2016

FIF
Future Innovation Forum



代表メッセージ

フューチャー イノベーション フォーラム (FIF) は、「イノベーションで人と社会を豊かに」というコンセプトのもと、人びとが組織の枠組みを越えて協力し、広く社会の発展に貢献することを目指して、2006年1月に発足しました。発足以来、次世代リーダーが相互研鑽する場や子どもたちに自身の将来を考えるきっかけとなる場を提供しており、これまでに約150のプログラムを企画し、のべ5,000名を超える方々に参画いただきました。このように継続して活動できましたのも、長年にわたる皆様のご厚情のお陰と心より御礼申し上げます。

いま世界はかつてないスピードで変化し続けています。中でも人工知能(AI)やロボットなど技術の進化は目覚ましく、これまで技術的に困難とされてきた製品やサービスが次々に登場しています。最新のテクノロジーを駆使してアイデアを具現化できれば、誰もが成功を手にするようになったのです。このように世界中の人びとに平等にチャンスがある時代だからこそ、個人も企業もイノベーションの根源が自身の思考やアイデアにあることを再認識し、リスクをとってチャレンジすることが求められています。

世界が大きな転換期を迎えている今、私たちは一人ひとりが生き生きと過ごせる社会を目指し、活動を通じて変革を起こしていきたいと考えています。次世代リーダーが共に日本の未来について議論する場や、子どもたちが自分のキャリアについて考える機会をつくり、互いに知恵を出し合い切磋琢磨しながら魅力ある社会を創り上げてまいります。

未来は過去の延長ではありません。今後も一人ひとりが輝く未来を築くためのプラットフォームとなり、イノベーションの実現に寄与するとともに、日本社会の発展に貢献していく所存です。

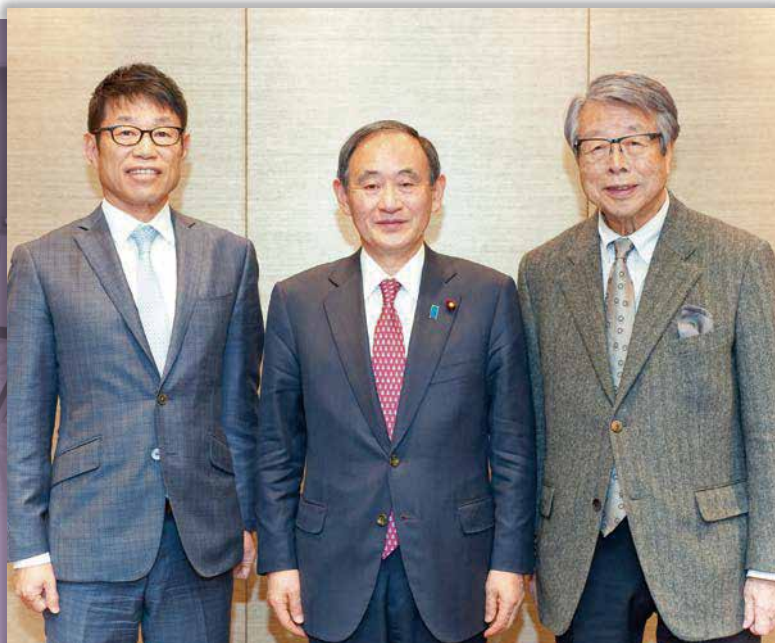
引き続き皆様のご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。



フューチャー イノベーション フォーラム代表

ウシオ電機株式会社
代表取締役会長

フューチャー株式会社
代表取締役会長兼社長



フューチャー イノベーション フォーラム 特別鼎談

フューチャー イノベーション フォーラム代表による新春恒例の特別鼎談。

今回は内閣官房長官の菅 義偉氏を迎え、世界情勢を見据えながら今後の日本の展望と課題について語っていただきました。

衆議院議員
内閣官房長官

ウシオ電機株式会社
代表取締役会長 FIF代表

フューチャー株式会社
代表取締役会長兼社長 FIF代表

菅 義偉 × 牛尾 治朗 × 金丸 恭文

新しい時代の幕開け

金丸 2017年に入って早々、アメリカではトランプ政権が誕生し、世界中を驚かせました。

牛尾 ちょうど8年前は、オバマ大統領の登場に世界が沸きましたが、今回のトランプ大統領の誕生は、大方の予想を覆しましたからね。

金丸 特にツイッターの威力はすごかったですね。自分の考えを短いセンテンスにのせて、圧倒的なスピードで拡散させる。その影響力の大きさに驚きました。ツイッターを戦略的に使えば、国さえも動かせると感じました。

菅 実のところ、トランプ大統領はSNSを活用した戦略に非常に長けています。選挙戦でも世間は何に一番注目しているのか、くすぶる不満は何かを的確に読み取り、ツイッターで自身の声を直接届けて、支持を広げていきました。これまでの常識にとらわれず、戦略・戦術を熟考する意外と手堅い政権ではないかと思っています。

牛尾 東西冷戦後の1990年に開かれたヒューストン・サミットで、自由貿易の推進、民主主義の推進、環境保護政策の推進が宣言され、世界各国がその方向に歩んできました。しかしトランプ政権は、この原則をがらりと変えようと

しています。今後“アメリカ・ファースト”をどれだけ実行していくのかは未知数ですが、大きく懸念しているのは、保護主義の復活です。

菅 安倍総理は2月中旬にアメリカを訪問し、トランプ大統領との間で初となる日米首脳会談を行いました。フロリダでの滞在期間を含め、両首脳の個人的な信頼関係を確かなものとするとともに、日米同盟の絆を一層強固にするなど大変意義深い訪問となりました。経済関係についてもさらに大きく飛躍させるため、麻生副総理とペンス副大統領の下で経済対話を立ち上げることにしました。今後はそうした場で、幅広い分野における米国との経済連携の在り方について、しっかり議論していくこととなるでしょう。

アイデアと実行力で世界に挑む

金丸 今年の安倍政権は、どの政策に力を入れて取り組んでいかれるのでしょうか？

菅 安倍政権はこれまで一貫して「何をやるか」を明らかにしながら改革を進めてきました。今年もアベノミクスは着実に進めていきますし、一億総活躍社会を実現するためにも、金丸さんにお世話になっている働き方改革と規制改革に精力的に取り組んでいきます。



菅 義偉 (すが よしひで)

法政大学法学部卒。26歳のとき「人生を政治にかけよう」と政治家を志し、横浜市議を経て1996年衆議院議員に初当選。総務大臣、内閣府特命担当大臣、自民党幹事長代行などを歴任。



牛尾 治朗 (うしお じろう)

東京大学法学部卒。1953年東京銀行入行。1964年ウシオ電機設立。経済同友会代表幹事、経済財政諮問会議議長などを歴任。総合研究開発機構会長、経済同友会特別顧問(終身幹事)。



金丸 恭文 (かねまる やすひみ)

神戸大学工学部卒。1989年起業、代表取締役就任。規制改革推進会議議長代理、未来投資会議構成員、働き方改革実現会議議員、経済同友会副代表幹事、NIRA代表理事を務める。

牛尾 高齢化と人口減少が進む日本においては、地方創生も大きな課題ですよ。

菅 そうですね。地方を元気にするには、やはり農業が一番重要です。実は地方に住みたいという若者は結構多くて、内閣府の調査によると、若い世代の半数以上が希望しています。でも十分な収入が得られないから、諦めている人が多いんです。農業で生活ができるようになれば若者が移り住み、地方の活性化につながるはずですよ。

金丸 たしか長官のご実家は、農家でしたよね。

菅 そうです。イチゴ農家の倅です。だから農業への思いは人一倍強い。実際に農業が元気になったことで、人口が増加に転じた町が、北海道にあるんですよ。

牛尾 それはどこですか？

菅 上士幌町という人口約5千人の町です。ここは「ふるさと納税」に力を入れていて、返礼品用の野菜や肉の出荷が増えたことで、地場産業が活性化しました。また寄付金を財源に、保育所と幼稚園の役割を併せ持つ「認定こども園」を10年間無料化した効果もあり、減る一方だった人口が2016年、13年ぶりに増加したんです。町が活気づいたことで、町役場の職員の目の色が変わり、これまで受け身だった姿勢が一転、アイデアをどんどん出すようになった、と町長も喜んでいました。

金丸 今やアイデア次第で、世界と戦える時代ですからね。象徴的なのが、昨年大ブレイクした「ピコ太郎」。正直に言って、あの程度の英語力、ダンス、ルックスですよ。でもちょっとユーモラスに歌って踊った映像を「YouTube」で流したら、全世界でブームが起きました。一度見たら、なぜか記憶に残る。戦略の勝利です。

菅 個人でもアイデアと実行力さえあれば、世界中から注目される。可能性は広がりますね。

金丸 かつてないほどのビッグチャンスが訪れている今こそ、特に若い人たちには失敗を恐れず、リスクを取ってチャレンジしてほしい。行動あるのみです。

牛尾 いつの時代もイノベーションを起こしてきたのは、若い世代です。若い人にはどんどん世界に挑んでもらい、日本発の新たなビジネスモデルを創り出してほしいですね。

時代の変化をチャンスに

金丸 私が起業した1989年に天安門事件が起き、「中国は終わった」と言われました。でも、それは終わりではなく“始まり”だった。日本が停滞している間に、中国は力をつけて経済大国となり、世界情勢も様変わりました。そして今、世界は再び大きな転換期を迎えているように感じます。

牛尾 トランプ政権の誕生や英国のEU離脱など、まさに世界は大きなうねりの中にいます。重要なのはどんな変化が起きようと、その流れに振り回されないこと。常に流れを主導する側でなくてはなりません。

金丸 国も企業も個人も、新しい在り方を模索する時期に来ているのではないのでしょうか。先が見えない時代だからこそ、変化のスピードに柔軟に対応していくことが不可欠です。現状を維持しようとするのは、むしろ最も過激な行為のように思えます。

菅 日本にもこれから大きな波が、次々と押し寄せてくるでしょう。それをいかにチャンスに変えていくか。常に先を見据えながら、信念を持ってその波に乗っていかねばなりません。

牛尾 だからこそ、変化への対応力に長けた長官の舵取りに、今後ますます期待しています。世界における日本のプレゼンスを、さらに高めてほしいと願っています。

(文中敬称略)

文責:Future Innovation Forum

Contents

FIFとは about FIF

about FIF 01

代表メッセージ

ウシオ電機会長 牛尾治朗
フューチャー会長兼社長 金丸恭文

▶ P.1

会員向け企画 Activities for Members

活力ある日本の未来に向けて、次世代リーダーが企業や業界の枠を越えて相互研鑽し、交流する場を提供しています。

members 01



特別鼎談

内閣官房長官 菅義偉様を迎えて

▶ P.2-3

キッズ企画 Activities for Kids

日本の未来を担う子どもたちに向けて、知的好奇心や創造力を育む体験型プログラムを実施しています。

kids 01



職業体験プログラム

ソフトドリンクの最前線(2016年7月)
物流の最前線(2016年7月)
セキュリティの最前線(2016年8月)

▶ P.13-19

about FIF 02

活動理念

▶ P.6-7

about FIF 03

プレスクリッピング

▶ P.22-26

members 02



イノベーションワークショップ

人工知能 (AI) で起こすビジネス革命
(2016年5月~9月)

▶ P.8-12

kids 02



プログラミング教室

ブラインドサッカー・バーチャル体験
(2016年7月)

宇宙エレベーターロボット競技会
(2016年11月)

▶ P.20-21

数字でみるFIF

5,044

2006年1月の設立から2016年12月末までの累計参加者数。内訳は会員企画が2,052名、キッズ企画が2,108名、復興支援企画が884名にのぼります。

633

職業体験プログラムに参加した子どもたちの数。初年度の参加者はすでに社会人に成長し、なかには職業体験で訪れた企業に就職した子どももいます!

▶ 詳しくはP17の『Future Kidsのいま』へ



149

2006年1月の設立から2016年12月末までに企画したイベント数。これまでで最も参加者が多かった企画は、2011年に宮城県仙台市で開催した復興支援イベント「アートdeスマイル にじいろパレット」。3日間で830名の来場がありました。



FIFの理念と活動

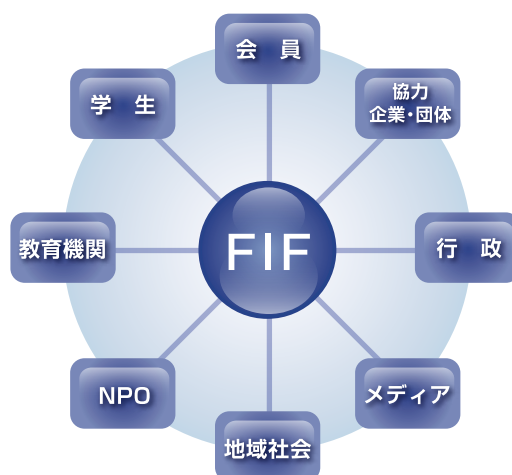
イノベーションで人と社会を豊かに

フューチャー イノベーション フォーラム(略称:FIF)は、「イノベーションで人と社会を豊かに」という理念のもと、企業同士が協力しながら広く社会の発展に貢献し、変革をもたらしていくことを目指して、2006年1月に設立した社会貢献団体です。活動の趣旨に賛同いただいている約670社の協力企業・団体の社員を中心とした会員組織で、会員数は2016年12月末現在で約1,300名にのぼります。

発起人であるウシオ電機株式会社 代表取締役会長 牛尾治朗とフューチャー株式会社 代表取締役会長兼社長 金丸恭文が代表を務め、日本を代表する経営者や知識人など総勢17名のアドバイザーボードメンバーに助言をいただきながら、フューチャー株式会社(本社:東京都品川区)が会を運営しています。

設立以来、変革の担い手となる様々な企業の次世代リーダーが交流し相互研鑽する場や、未来を担う子どもたちが将来の夢を描ききっかけとなる場を提供しており、その活動は大きく「会員向け」と「キッズ向け」のふたつに分かれます。会員の方々に対しては、共通のビジネス課題について議論するセミナーやワークショップを定期的で開催しています。また子どもたちに対しては、キャリア教育を目的とした職業体験やプログラミング教室を企画・運営しています。

こうした活動は多くの企業をはじめ、学校や各種団体と協力・連携して行っており、組織の枠組みを越えて広くつながるオープンイノベーション型の活動に継続して取り組んでいます。



会員向け企画

次世代リーダーを育成し
日本の未来に活力をもたらす

セミナー ワークショップ

キッズ企画

未来を担う子どもたちの
夢・可能性を広げる

職業体験 プログラミング教室

FIFの使命は、日本の明るい未来に向けて、企業同士のコラボレーションを促し、新しいビジネスの芽や可能性を見出すとともに、未来を担う子どもたちの夢や創造力を広げていくことです。

アドバイザーボードメンバー

- 青山 幸恭** : 総合警備保障株式会社 代表取締役社長
- 明石 勝也** : 聖マリアンナ医科大学 理事長
- 伊藤 元重** : 学習院大学 国際社会科学部 教授
- 牛尾 治朗** : ウシオ電機株式会社 代表取締役会長
- 金丸 恭文** : フューチャー株式会社 代表取締役会長兼社長
- 川本 裕子** : 早稲田大学 大学院 経営管理研究科 教授
- 栗和田 榮一** : SGホールディングス株式会社 代表取締役会長
- 小島 順彦** : 三菱商事株式会社 取締役相談役
- 鈴木 茂晴** : 株式会社大和証券グループ本社 取締役会長
- 張 富士夫** : トヨタ自動車株式会社 名誉会長
- 中西 勝則** : 株式会社静岡銀行 代表取締役頭取
- 新浪 剛史** : サントリーホールディングス株式会社 代表取締役社長
- 藤沢 久美** : シンクタンク・ソフィアバンク 代表
- 藤森 義明** : 株式会社LIXILグループ 相談役
- 増田 宗昭** : カルチュア・コンビニエンス・クラブ株式会社 代表取締役社長兼CEO
- 三木谷 浩史** : 楽天株式会社 代表取締役会長兼社長
- 渡 文明** : JXホールディングス株式会社 名誉顧問
(2016年12月末現在 氏名50音順敬称略)



アドバイザーボードミーティングにて(2016年5月)

2016年度の活動実績

会員向け企画コンセプト：グローバル競争を勝ち抜くための相互研鑽

キッズ企画コンセプト：世界に誇れる人材をFIFから

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
全体	★ 特別鼎談		★ 2015年度 活動報告書発行		★ 第11回 アドバイザーボード ミーティング							
会員					★ 第1回 ワークショップ		★ 第2回 ワークショップ		★ 第3回 ワークショップ			
キッズ							★ ★ ★ ★	★ ★ ★ ★				★ 宇宙エレベーター ロボット競技会

会員向け企画

次世代リーダーを育成し、日本の未来に活力を

イノベーションワークショップ2016

次世代リーダーの育成と会員同士の交流を深める場として、2007年からワークショップを開催しています。2016年度はディープラーニングという新しい技術により飛躍的に進化している人工知能(AI)を活用して、新しいビジネスモデルを創り出すベンチャー企業やAIをビジネスに応用している企業の事例をみながら、実際の現場でAIをどのように活用するのか、またAIによってビジネスがどう変わるのかを議論しました。

シリーズテーマ: 人工知能(AI)で起こすビジネス革命

コメンテーター: 東京大学 大学院工学系研究科 特任准教授 **松尾 豊 様**
東京大学 大学院工学系研究科 特任助教 **上野山 勝也 様**

会場: フューチャー株式会社(東京都品川区)



上野山 勝也 様

プログラム概要

第1回 AIが可能にする新しいビジネス

第2回 Robot of Everything ~人が運転するあらゆる機械にロボット技術を~

第3回 現場で活躍するAI ~AIの導入プロセス

参加企業 42社 (社名50音順)

ウシオ電機株式会社	株式会社常陽銀行	株式会社乃村工藝社
株式会社NTTドコモ	住友林業株式会社	野村證券株式会社
オリックス株式会社	株式会社ZMP	マネックス証券株式会社
オルビス株式会社	全日本空輸株式会社	株式会社ミスミ
株式会社外為どっとコム	総合警備保障株式会社	三井住友信託銀行株式会社
カルチュア・コンビニエンス・クラブ株式会社	ソフトバンク株式会社	三井不動産株式会社
キッコーマン株式会社	大東建託株式会社	株式会社三越伊勢丹システム・ソリューションズ
株式会社群馬銀行	大日本印刷株式会社	三菱商事株式会社
株式会社ケーヨー	大和ハウス工業株式会社	株式会社LIXIL
株式会社コメリ	株式会社高島屋	株式会社リクルートホールディングス
佐川急便株式会社	東京海上日動火災保険株式会社	株式会社りそな銀行
サッポログループマネジメント株式会社	凸版印刷株式会社	株式会社ローソン
JXエネルギー株式会社	日本郵便株式会社	株式会社ワークマン
J.フロント リテイリング株式会社	日本航空株式会社	株式会社ワールド

2016年5月13日開催

東京大学 大学院工学系研究科 技術経営戦略学専攻 特任准教授
松尾 豊 様



松尾 豊 様

第3次 AIブームの背景

2016年3月、英DeepMind社が開発した囲碁の人工知能(AI)「アルファ碁」が、世界最高峰の韓国人棋士、イ・セドル九段に勝利し、世界中に大きな衝撃を与えた。ディープラーニングという技術を活用したAIが、予想を遥かに超えるスピードで進化を遂げていたからだ。1950年代に研究が始まったAIはいま第3次ブームを迎えているが、これまでのブームと異なるのは、ディープラーニングの飛躍的な進歩によって実用例が広がり、ビジネス活用への期待が高まっていることだ。ディープラーニングとは、ニューラルネットワーク(神経回路網)を使って人間の脳に近い情報処理を行う技術で、人間と同じように経験に基づいた学習ができる。なかでも画像認識の進化は目覚ましい。たとえばコンピュータに「ネコ」を認識させるには、人間がネコの特徴(「耳がとがっている」「目が丸い」など)を入力する必要があったが、特徴に当てはまらないケースも多く、精度はあまり高くなかった。しかし、ディープラーニングが劇的に進化した2012年以降、AIにネコの画像を大量に読み込ませれば全体像や顔などのパーツを何層にもわたって学習し、AI自らその特徴を見出せるようになった。2015年3月には2枚の顔写真が同一人物か否かを見分けるテストにおいて、AIが99.63%の認識率を記録し、精度において人間の能力を超えた。この「特徴量」を見出すという新しい技術は、AIにおける60年来のブレイクスルーであり、ビジネスや社会に今後大きなインパクトをもたらすだろう。

AI技術の向上による産業・社会へのインパクト

人間が特徴量を設計するAIを「大人のAI」と呼ぶのに対し、ディープラーニングで自ら特徴量を見出すAIを「子どものAI」と呼ぶ。2013年頃から、子どものAIに「強化学習」、すなわち行動を学習する仕組みを組み合わせ、AIの運動能力を高める研究が世界各国で進んでいるが、破壊的なイノベーションが起きる可能性を秘めており、その変化の本質は大きく二つある。一つは、画像認識ができないために人間が行っている作業が自動化されることだ。すでに防犯・監視の分野では、米国でAIを活用した屋外監視カメラが登場した。大幅な人件費の削減につながるだけでなく、感情理解や行動予測、環境認識といったマルチモーダルな認識を加えれば、監視カメラで怪しい人物を見つけ出すことも可能になる。

もう一つは、農業や建設業、食品加工業など画一的な作業ではない分野でのロボットの導入だ。たとえばトマトを収穫する場合、「熟したトマトを見つけて」「もぎ取る」という作業は、人間にとって難しくないが、トマトの位置や状態、つかみ方を個々に判断しなければならないため、自動化が難しいとされてきた。しかし、画像認識の精度とロボットの運動能力が上がれば個別の対応が可能となり、作業の自動化が実現できる。農業、建設業だけを見ても大きな市場が見込まれる。

日本企業の可能性 —“運動系AI”で世界と戦う

今後は、AIをどのようにビジネスに応用していくかが主戦場となる。画像認識の領域ではGoogleやAmazonなどの米国企業が大きく先行しているが、日本企業にも勝機はある。それは“運動系”のAIだ。製品を動かし加工する技術は、ものづくりに強い日本が得意な分野であり、正確性や安全性が求められる運動系の緻密な領域において世界と十分に渡り合える。運動系のAIには、まだキープレーヤーが存在しない。だからこそこのチャンスをつかみ、試行錯誤するなかで人材を育てノウハウを蓄積し、競争力を高めてほしい。いかにスピード感をもって取り組めるかが、日本経済再生の鍵を握っている。



2016年7月6日開催

株式会社ZMP 代表取締役社長 谷口 恒 様



谷口 恒 様

自動運転技術開発のパイオニア ZMP

ロボット技術や人工知能(AI)の進化とともに、世界の自動車メーカーやIT企業が自動運転車の開発に力を入れている。日本でも開発競争が激化しているが、株式会社ZMPは2008年から本格的に自動運転技術の開発に乗り出し、その技術を物流や土木・建築、農業など幅広い領域に応用した事業を展開している。

2001年の設立当初は、二足歩行の人型ロボットを開発していたが、高度な技術が必要な反面、ニーズが不透明なことから発想を転換。自律移動で培ってきた“周辺環境を認識・判断し、操作する技術”をすでに実用化されている分野に応用すれば、新たな需要が掘り起こせると考え、裾野の広い自動車産業に目をつけた。現在は自動車メーカーや部品会社に、自動走行システムを搭載した研究開発用のプラットフォームを提供しているほか、物流支援ロボットや自律型無人航空機などの開発・販売、サービス提供を行っている。また自動運転車による無人タクシーサービスの実現を目指して、株式会社DeNAと合弁会社「ロボットタクシー株式会社」を設立し、2016年春に神奈川県藤沢市の公道で実証実験を行った。乗車したモニターからは「走りがスムーズ」「主人の運転よりも安心」と好評で、新たな交通手段としての期待は大きい。

社会の課題を解決するロボット技術

高齢化と過疎化が進む地方では、路線バスの廃線やタクシー会社の廃業によって移動手段を持たない「交通弱者」が増え、大きな問題になっている。こうした課題を解決できるのが、ロボットタクシーだ。スマートフォンで配車から決済までを行って便利なおうえ、人件費がかからないため安い料金で利用できる。病院や介護施設の巡回ルートに活用すれば、公共インフラとして利便性も高まる。ロボットタクシーは地方創生の切り札であり、地域経済の活性化につなげたいと考えている。物流業界は慢性的な人手不足が大きな課題だが、その解決策として開発したのが、台車型の物流支援ロボット「CarriRo」だ。高齢者や女性でも楽に運ぶことができ、1台目の台車を自動追従する機能を備える。ビッグデータと連携させれば、商品の出入荷や検品作業、在庫管理もできるようになる。作業員の負荷が軽減するだけでなく、「現場の見える化」によって業務改善や経営効率化に大いに役立つと期待している。

また2015年8月には、ソニー株式会社と合弁会社「エアロセンス株式会社」を設立し、ドローン事業にも乗り出した。建設・土木現場での測量などを行っているが、医療の地域格差の解消に向けて、今後は離島や遠隔地に医薬品を届ける輸送サービスを手掛けていく。2016年秋以降、アフリカのザンビアで医療品の輸送を目的とした物流サービス普及促進事業を始める予定だ。世界の空を舞台に、ドローン輸送事業のパイオニアを目指す。

コラボレーションからイノベーションを

「Robot of Everything」はZMPのミッションであり、あらゆる分野にロボット技術を応用することで、より安全で楽しく便利なライフスタイルが創造できると考えている。各分野にある日本の高い技術力を組み合わせれば、世界が驚くような日本ならではの先端ビジネスが必ず生まれるはずだ。そのために欠かせないのが、コラボレーションである。イノベーションの源泉はコラボレーションにはかならない。2020年の東京オリンピック、さらにその先に向けて、今後も様々な分野において常にコラボレーションの可能性をさぐり、日本から世界へイノベーションを起こしていきたい。



2016年9月29日開催



小林 晋也 様

事例1 「ECサイトのメール振り分けシステム」 株式会社eSPORTS 取締役 菅野 祐介 様

eSPORTSは主にスポーツ用品やアウトドア用品のインターネット通販を手掛け、このジャンルのEC(電子商取引)市場で日本最大規模の売上げを誇る。競争が激化するEC市場で他社との差別化を図るため、eSPORTS社は市場のトレンド分析や業務システムの刷新などに取り組んできた。やり尽くした感があるなか、さらに改善できる“聖域”はないか見直した結果、目をつけたのがサイトに届くメールの振り分け業務だった。サイトには商品の問い合わせや在庫確認、メーカーとの商談など、多いときは一日に1,000通を超えるメールが届く。それを数名の専任担当者が該当する部署へ振り分けており、“匠の領域”であった。そこに2015年人工知能(AI)を導入し、業務ルートの整理の自動化を目指した。

導入には、システムのエンジニアと業務担当者が協力し、AIに過去数十万件のメールを読み込ませ、AIの振り分けが妥当かどうかを業務担当者がチェックしていった。これを繰り返すことで精度を上げていき、わずか数カ月で本格稼働にこぎつけた。今では95%の精度を保っている。工数削減だけでなく、レスポンスが早くできるようになったことで機会ロスが減り、売上げにも貢献している。またこれまで埋もれていたお客様の声を、事業戦略に活かすくみづくりも進めている。AIの魅力は、人間が気づけなかった部分にタッチできることだ。導入にあたっては人が行うのが当然だと思っている“聖域”を見つけて、とにかく始めることが大切であり、試行錯誤しながらシステムを大きく育てていけばよいと思う。

事例2 「ウシの発情や疾病を検知する牛群管理システム」 株式会社ファームノート 代表取締役 小林 晋也 様

ファームノートの小林代表は北海道十勝地方に生まれ、農家の祖父を持つ。ITベンチャーを起業し、企業の課題解決を行うなか、ある酪農家へ視察を重ねるうちに日本の農業をITで強くしたいと思い立ち、2013年にファームノートを設立。クラウドを使った牛群管理システム「Farmnote」や、ウシのウェアラブルデバイス「Farmnote Color」を開発・提供している。生乳の生産量を上げるには、ウシの健康を維持することと、雌ウシをタイミングよく妊娠・分娩させ、適切に搾乳ができる状態にすることが重要だ。そのため酪農家はウシの状態を日々観察してノートに記録し、体調管理や発情・種付けのタイミングの見極めを行っている。しかし、見逃しによる機会ロスも多く、その潜在的な損失は非常に大きい。そこでより効率的にウシを管理するため、手書きノートに変わる牛群管理システムと、センサーとAIを活用したデバイスを開発した。

ウシの首にデバイス「Farmnote Color」を取り付けると、ウシの「活動」「反芻」「休息」といった行動データが個別別に収集され、それをAIで学習・解析して発情や疾病の兆候を検知し、酪農家のスマートフォンに通知される。簡単に操作できるようインターフェイスも工夫しており、利用者からは「目の前にいるウシのデータを確認できるのがいい。早めに対応でき経営効率も上がった」と好評だ。このシステムはウシの育成履歴や作業内容など牧場運営を「見える化」することから、牧場の収益向上だけでなく、未経験の若者や就農希望者が参入する後押しになることも期待されている。

ファームノートが目指すのは“農業の頭脳”だ。今後も農家の利益向上を第一に考え、農業に関するあらゆるデータを収集・解析し、結果を伝えることで農家の意思決定をサポートし、日本の農業を成長産業に変えたいと考えている。



イノベーションワークショップ2016

—参加者の声—

講義後は、毎回グループディスカッションを行いました。各企業が保有するビッグデータをAIで分析することで可能となる新しいサービスや、それぞれの業界・業種でAIが導入可能な領域について意見を出し合い、グループごとにアイデアを発表しました。

第1回 AIが可能にする新しいビジネス

- ・ 画像認識によるディープラーニングが、ここまで進んでいるとは驚きでした。
- ・ ディープラーニングの活用イメージが具体的にわき、大変参考になりました。
- ・ 「AIはなんでもできそう」という漠然とした理解しかありませんでしたが、講演を聴き技術の輪郭が見えました。非常に有意義でした。
- ・ 画像さえあれば、これまでの分析が不要になるかもしれないことがわかり、従来の考え方を考える必要がありそうだと感じました。
- ・ ディープラーニングの本当の強みを理解していないと、的はずれな構想を描くことになってしまいます。理解した上で、もう少し飛躍した発想が実現可能かどうか議論したいと思いました。

第2回 Robot of Everything ～人が運転するあらゆる機械にロボット技術を～

- ・ 自動走行の未来の可能性を大きく感じる講演でした。自動走行が当たり前の時代において、何が次のマーケットとして伸びてくるのか興味があります。
- ・ わくわく感のある楽しい内容でした。夢を実現しようとされていることに非常に好感をもちました。
- ・ 徹底的にユーザーが困っていることにフォーカスした製品化・サービス化を行っている点、積極的にコラボレーションされている点が印象に残りました。良い刺激をいただきました。
- ・ 技術とやわらかな発想力、実現に向けて追求する力がイノベーションには必要なのだと感じました。
- ・ 最も大切なのは思いや信念である、ということに感銘を受けました。

第3回 現場で活躍するAI ～AIの導入プロセス

- ・ 業種にとらわれず、AIを導入するときの考え方や進め方がとても参考になりました。
- ・ 社内のネットワーク内では収集しがたい情報を集めることができ、非常に有益でした。
- ・ 発想や目の付けどころがとても参考になりました。
- ・ 同業種や異業種の方々とのディスカッションは刺激があり、とても有意義でした。
- ・ まさに直面している課題なので、基礎的な知識から応用方法まで幅広く知ることができ勉強になりました。
- ・ 漠然としていたAIについて、いま抱えている課題と絡めて考えることができました。今後の社内プロジェクトに活かしたいと思います。
- ・ 勉強になりました。小さな課題からAI導入を進めていきます。



職業体験プログラム

FIFは2006年の設立からキャリア教育の一環として、小中学生を対象にした職業体験プログラムを実施しています。職場での仕事体験やトップとの対話をとおして働くことの楽しさややりがいを体感し、早い段階から社会に関心を持ってもらうことを目的としています。

設立からこれまでに、約630名の子どもたちが参加しました。

コンセプト

社会の “しくみ”を実感

企業の役割や商品・サービスが提供されるまでの裏側を学び、今まで気づけなかった社会の“しくみ”を実感する。

社会人として あるべき姿の模索

企業のトップや働く大人たちと対話することで、社会人としての理想像やリーダー像、将来の夢をより現実的に描く。

働くことの楽しさや やりがいを体感

学校や家庭とはひと味違う、オフィスや工場での様々な体験を通じて、働くことの楽しさややりがいを体感する。

プログラムの特色

参加者一人ひとりが“体験すること”を大切に、協力企業とともにそれぞれの企業の特色を生かしたオリジナルプログラムを企画しています。

企業・団体のトップとの対話、ふれあい

普段接する機会が少ない企業・団体のトップの方から話をきいたり、直接質問したりすることで仕事への情熱や経営に対する姿勢を学ぶ。

普段は見られない場所やしくみの見学

関係者以外には公開することのない研究所やシステムなどを見学し、その企業・業界における最先端の技術やしくみにふれる。

現場での職業体験

オフィスや店舗で実際に行われている業務を大人とともに体験しながら、働いている人の想いやプロの仕事を肌で感じる。

ソフトドリンクの最前線

飲料工場の見学や麦茶づくり、レモンを使った実験などをとおしておいしくて安全な飲み物や食べ物がどのようにつくられているのかを学びました。今回初めての開催。



1 大麦の学習



2 麦茶づくり (大麦の脱穀と焙煎)



香りがよくて
こうばしくて
おいしかった!



4 レモンを使った実験



3 飲料工場の見学



ロボットが
大活躍してい
てすごいと思っ
た

5 レモンラッシーづくり



6 高島専務への質問会



高島さんの
「地球全体の
環境を考えている」
という言葉に
感動した

実施概要

- 日時：2016年7月22日(金) 10:00~16:00
- 会場：ポッカサッポロフード&ビバレッジ株式会社 群馬工場(群馬県伊勢崎市)
サッポロビール株式会社 バイオ研究開発部(群馬県太田市)
- 参加者：小学5、6年生 19名
- 主催：フューチャー イノベーション フォーラム
- 協力：ポッカサッポロフード&ビバレッジ株式会社
サッポロビール株式会社、フューチャー株式会社
- 後援：伊勢崎市教育委員会、品川区教育委員会

子どもたちの感想や質問を聞いて、「ああ、そうだったのか」と自身の仕事について改めて気づかされました。我々も学びが多かったです。ものづくりには、たくさんの方が関わっているということを感じたと思います。この体験を将来思い出してくれたら嬉しいです。



※役職は開催当時

ポッカサッポロフード&ビバレッジ株式会社専務
高島 英也 様

物流の最前線

スマートフォンを使った荷物の配達実習や現場で活躍するロボットとのふれあい、海外からの荷物も保管する保冷施設の見学などを行い、IT化とグローバル化が進む物流について学びました。9回目の開催。



1 荷物が届くしくみと国際物流について学習



2 トラックの見学



3 クール室の見学



マイナス23度の冷凍室は寒かったけどとても楽しかった!

5 大型物流施設の見学



いつも届けてくれるドライバーさんの気持ちがわかった

4 荷物の配達実習



6 荷物の発送体験



7 栗和田会長との名刺交換と質問会

「荷物とまごころを届ける」と聞いて感動した



実施概要

- 日時：2016年7月27日(水) 10:00~16:00
- 会場：佐川急便株式会社 東京本社(東京都江東区)
- 参加者：小学5、6年生 19名
- 共催：佐川急便株式会社
フューチャー イノベーション フォーラム
- 協力：フューチャー株式会社
- 後援：江東区教育委員会、品川区教育委員会

子どもたちに驚かされました。「宅配のメリットとデメリットは何ですか?」など、私たちが考えもしないような質問が多く、普段から「なぜ?」と疑問を持ったり、私ならこうしたいと考えたりしていることが伝わってきました。こうしたことが、次の成長につながるのだと思います。



佐川急便株式会社社長
栗和田 榮一様

セキュリティの最前線

ウェアラブル端末で危険人物を捜しだす未来の警備のデモやガードマンの訓練の一部を体験し、人とITが融合した未来のセキュリティとガードマンの心得を学びました。4回目の開催。



1 警備の仕事について学習



2 ドローンを活用した最新警備システムの学習



3 人とITが融合した未来の警備体験



4 ガードマンの心得と基本動作の学習



警備員さんがきびきび動いていてカッコよかった!



顔認証の技術を使って犯人を捕まえるのが楽しかった



5 AEDの操作体験・防災講習



6 青山社長への質問会

ALSOKは「身体、生命、財産」を守っていることがわかった



実施概要

- 日時：2016年8月4日(木) 10:00~16:00
- 会場：ALSOK 稲城ビル(東京都稲城市)
- 参加者：小学5、6年生 19名
- 共催：ALSOK
フューチャー イノベーション フォーラム
- 協力：フューチャー株式会社
- 後援：品川区教育委員会

大きな刺激になりました。子どもたちは自分たちが大きくなったら、社会がどうなっているのかを常に考えている。それがとても新鮮でしたし、頼もしく感じました。これからの日本の未来を創っていくのは、子どもたちです。勇気をもって前に進んでほしいと思います。



ALSOK社長
青山幸恭様

特集

Future Kidsのいま

子どもの頃の職業体験と

大学時代の再訪をきっかけに入社



須藤 大輝さん

小中学生のとき職業体験「物流の最前線」に参加し、高校生～大学生に成長した方を対象に2015年夏、再び佐川急便株式会社を訪ねるといふイベントを開催しました。この再訪をきっかけに、当時大学4年生だった須藤大輝さんが、2016年春、SGホールディングス株式会社に入社しました。子どもの頃から物流に興味があったという須藤さんに、お話を伺いました。

チャレンジできる会社だと実感

FIF 須藤さんがSGホールディングス株式会社に入社されたと伺ったときは驚きましたが、同時にとても嬉しく思いました。まずは入社をきっかけを教えてください。

須藤 子どもの頃「物流の最前線」に参加したのはもちろんですが、2015年の再訪イベントに参加したことが大きかったです。ちょうど就職活動の真っ最中で、イベントを通じて佐川急便は社員と経営層との距離が本当に近い会社だなと感じました。社員の方に聞いてみたら、新人のうちからやりたいことをやらせてもらえるとのこと、ますます興味を持ちました。僕はやりたいことがたくさんあって、普段からチャレンジできる会社がいいなと思っていたので、入社を決めました。

FIF 入社後の2016年には、かつて自分が参加した「物流の最前線」に社員として参加し、子どもたちのサポートにあたってくれました。自ら上司に参加したいとお願いしたそうですね。

須藤 そうなんです。今年もイベントがあると聞き、すぐ直談判しました(笑)。いまは研修期間中なので、佐川急便の東京営業所に勤務しているのですが、所長にお願いしたところ快く承してくださいました。すごく嬉しかったです。せっくなので同期の友だちにも声をかけて、4名で参加しました。

FIF 仲間も一緒にというのは流石です。社員という立場で子どもたちとふれあってみて、いかがでしたか？

須藤 やっぱ楽しいですね。子どもたちは正直なので、

良いこともそうじゃないことも言ってくれます。それがとても勉強になりますし、会社にとっても今後の企業の在り方を考える上で、とても参考になります。

佐川急便のファンを増やしたい

FIF 子どもたちの様子を見ながら、自分が体験したときのことを思い出したのでは？

須藤 そうですね。配達実習のときのドキドキ感は、すごくよく分かります。お母さんと離れて一人でできて、知らない大人がいっぱいいいて……。最初は緊張しましたが、スタッフの方が温かく迎えてくださり、次第にチームの仲間とも打ち解けて楽しく体験できたのを覚えています。それに環境問題への取組みの一環として、一般のトラックと天然ガスの排気ガスの汚れの違いを見せてもらったのが印象に残っていますね。体験を通じて、子どもたちに「佐川急便は良い会社だ」と思ってもらえたら本当に嬉しい。ファンを増やしていきたいです。

FIF 最後に将来の夢を聞かせてください。

須藤 大学では防災について学んだので、たとえば大きな災害が起きたときにすぐトラックを動かすためのBCP(事業継続計画)やリスクマネジメントの仕事がしたいです。研修中に見識を広めて今後活かしたいですし、これからもFIFの活動を応援したいと思っています。

FIF 私たちもたくさんの子もたちに、職業体験の場を提供していきたいと思っています。本日はありがとうございました。(2016年7月27日実施)



2007年



2015年



2016年

職業体験プログラム アンケート結果一

FIFはプログラム終了後、参加した子どもたちと保護者の方々にアンケートを実施し、プログラムの見直しや運営の改善に役立てています。アンケートに寄せられた声の一部を紹介します。

質問1 参加してみてどうでしたか？



ソフトドリンクの最前線

- ▶ ばいせんしたての麦茶が飲めた。おいしかった。
- ▶ 大麦の工夫で、麦茶やビールの味が変わるのがすごいと思った。
- ▶ 工場は機械化が進んでいると思った。
- ▶ レモンの栄養について知ることができた。
- ▶ みんなといっしょにレモンラッシーをつくっておいしかった。家でもつくりたい。
- ▶ 高島さんのお話がとても伝わってきた。



物流の最前線

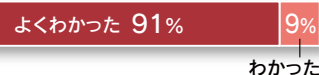
- ▶ 物流のしくみを知ることができてよかった。配達のしくみがすごいと思った。
- ▶ いろいろなトラックを見て楽しかった。特徴を知ることができた。
- ▶ しっかりと相手の目を見て配達できた。セールスドライバーになったように思えた。
- ▶ 物流センターはいろいろな荷物が流れていて、すごいと思った。
- ▶ 会長との名刺交換はめったにできないことだからときどきした。

セキュリティの最前線

- ▶ ドローンを飛ばしたのが楽しかった！
- ▶ 最新の技術を知ることができて、うれしかった。
- ▶ ガードマンの基本教練は、実際に体験してみたらとても大変だったけど、ALSOKの皆さんはとても努力していることがわかり、すごいなと思った。
- ▶ 学校では最先端のことを教えてくれないけど、ここではたくさん教えてくれた。
- ▶ AEDは人の命を救うことができる。



質問2 訪問した企業がどんな会社か、どんな仕事をしているのかわかりましたか？



ソフトドリンクの最前線

- ▶ 大麦にもたくさんの種類や色があること。
- ▶ 大麦が二条と六条に分かれていること。同じに見えるのに違うことにおどろいた。
- ▶ 世界中と協力して、大麦の研究をしていること。
- ▶ 1秒に20缶つくっていること。
- ▶ 工場でいろいろな工夫をしたり、食べた人の意見をもとに新しい商品をつくっていること。
- ▶ 高島さんのサインに「元気にガンバレ!!」と書いてあって、うれしかった。

物流の最前線

- ▶ 佐川急便が海外へも進出していることにおどろいた。
- ▶ トラックが24,000台もあること。
- ▶ 受け取りのサインがスマホでできること。
- ▶ 冷蔵庫や冷凍庫の中の寒さ。この寒さの中で仕事をするのはすごく大変だろうなと思った。
- ▶ 環境や地球のことにもすぐく気をつけていること。
- ▶ 栗和田会長の「会社が大きくなったのは、みんなの苦勞のおかげ」という言葉に感動した。



セキュリティの最前線

- ▶ 「ALSOK」の名前の意味を初めて知った。
- ▶ ドローンが人工知能を使っていること。
- ▶ 表情を見れば、その人のイライラやストレスがわかるカメラがすごかった。
- ▶ 警備員さんの大きな声に驚いた。
- ▶ 警備の仕事や心掛けていることがわかった。お客様のことを考えていたことが心に残った。
- ▶ AEDの使い方を初めて知った。自分も心肺蘇生で人の命を救えるかもしれないと思った。



保護者のみなさまより

ソフトドリンクの最前線

- ▶ 「家で飲んでいる麦茶と全然違った!」「工場では、人がするところと機械がするところがあるんだよ」など見たこと、聞いたこと、感じたことをたくさん教えてくださいました。
- ▶ 高島専務から「生きとし生けるもののために、できる限り環境に良い取り組みをしている」というお話を聞き、感動したそうです。
- ▶ 工場ではペットボトルの90%以上を再利用していることを知り、率先してごみの分別をしています。
- ▶ 「メチャクチャおもしろかった!」と目を輝かせて帰ってきたことが、親としてとても嬉しかったです。大人になったら、自分のアイデアで商品を生み出せる仕事に就きたいと言っています。
- ▶ 将来は新しい味を研究する仕事がしたくなったそうです。

物流の最前線

- ▶ 帰宅するなり「応募してくれてありがとう～」と抱きつかれました。
- ▶ 荷物が届くしくみやトラックについて興奮気味に話してくれました。自分が発送した荷物が翌日届いた際、実際に配達に来たドライバーさんと話が弾んでいました。
- ▶ 栗和田会長が笑顔で名刺交換してくださったので緊張がほぐれたそうです。帰宅後、父親とも名刺交換をしていました。
- ▶ 荷物を一つを届けるのにも、たくさんの人たちの手と心がこもっていることがわかったようです。「大人になったら、自分も人のためになることをしたい」と言っていました。
- ▶ 「佐川急便で働きたい!」と言っていました。働くことの意味、そして将来に向けてどのように歩むかを考える、よい一日となりました。

セキュリティの最前線

- ▶ とてもシャープな敬礼を披露してくれました。
- ▶ 帰宅してからずっとALSOKのお話をしています。セキュリティの大切さを実感したそうです。
- ▶ AEDや救急について学んだこと、社長さんに回答いただいた内容がすごく心に残ったと言っていました。
- ▶ 実際に現場で働いているガードマンの方に話を伺ったり、体験をさせてもらったことで、仕事の大切さや意義を感じたようです。
- ▶ 同世代の子どもたちと協力して取り組んだことで協調性はもちろん、社会に対する見聞を広める経験ができ、子どもの成長を感じました。

プログラミング教室

FIFは2006年の設立から、イノベティブな人材の育成をめざし、小中高生を対象にしたIT教室を実施しています。プログラミングの体験学習をとおして、ITの楽しさや創造する喜びを体感するとともに、論理的な思考力を養い、ITのおもしろさや可能性を感じてもらうことを目的としています。

コンセプト

ITへの興味を喚起

ITのしくみを知り、技術のおもしろさやデジタルの可能性を感じることで、ITを身近に感じる。

“使う側”から“創る側”へ

自分の手でつくりあげる達成感を味わい、ITを“使う側”から“創る側”に立つ喜びや楽しさを体感する。

ITで社会をデザイン

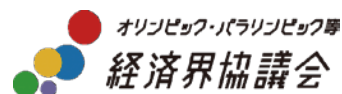
ITをツールに、新たな社会のしくみを考え、変革を起こしていける力を身につける。

ブラインドサッカー・バーチャル体験

FIFの運営会社であるフューチャー株式会社は、2020年に開催される東京オリンピック・パラリンピック大会を盛り上げるため、複数の企業・団体と協力して様々な活動を行っています。その一環として、視覚障害者向けの「ブラインドサッカー」をより多くの人に知ってもらおうと、バーチャル・リアリティ (VR) で体験できるアプリを開発。大会会場で来場者を対象に「VR体験会」を行い、FIFも運営に協力しました。体験会には子どもから年配の方、外国の方まで約200名が参加し、特殊なゴーグルをつけて、ボールの音と選手同士のかけ声だけで行われるプレーを体感しました。参加者は「選手の感覚を肌で味わえて楽しかった」「こんな状況でプレーをしているなんて、選手のすごさが改めてわかりました」と話していました。

実施概要

日時：2016年7月10日(日) 10:00～16:00
会場：アミノバイタルフィールド(東京都調布市)
参加者：約200名
主催：オリンピック・パラリンピック等経済界協議会
協力：日本ブラインドサッカー協会



宇宙エレベーターロボット競技会

アイデアとプログラミング力を競う日本発祥の「宇宙エレベーターロボット競技会」。子どもたちがプログラミングを通じてモノづくりの基本となる論理的な思考を身につけ、学んだことを発表する場をつくろうと、中学・高校の教員たちが中心となって2013年より大会がスタートしました。FIFは2015年から運営に協力しています。

4回目となる大会には、全国から76チーム、約300名の小中高生が参加し、世界標準のロボット教材をプログラミングして地上5mに設置された“宇宙ステーション”まで、いかに速く正確にピンポン玉や人形を運ぶかを競いました。競技後はポスターセッションを行い、参加者同士で交流を深めました。

1 宇宙エレベーターについて講演



2 競技会



ピンポン玉がステーションにちゃんと入るかドキドキした

4 表彰式



高校3年なのでこれが最後の大会有終の美を飾れてうれしかった

3 ポスターセッション



ほかの学校に質問できて参考になった

実施概要

日時：2016年11月20日(日)10:00~16:50
 会場：日本科学未来館(東京都江東区)
 参加者：小学生~高校生 76チーム 約300名
 主催：宇宙エレベーターロボット競技会実行委員会
 (実行委員長:神奈川大学附属中・高等学校 小林道夫教諭)

競技結果 優勝チーム(獲得点数)

小学生の部	日吉クリーパーズ(Truth Academy日吉校/神奈川)	10点
中学生 初級の部	SIT-SCORPION(湘南工科大学附属高等学校/神奈川)	85点
中学生 中級の部	中大附属Aチーム(中央大学附属中学校・高等学校/東京)	58点
ポスター賞	マレフィセント(長野県諏訪清陵高等学校附属中学校)	—

プレスクリッピング

職業体験プログラムを中心に、テレビや新聞、ウェブニュースなど多数のメディアで紹介されました。

	日付	媒体	見出し
	6.01	Logistics Today	フューチャーアーキテクト、小学生に佐川の物流体験
	6.01	LNEWS	F I F / 佐川急便で「物流の最前線」を体験
	6.08	ICT教育ニュース	小学生向け職業体験プログラム「セキュリティの最前線2016」を8月開催
	6.09	RBB TODAY	近未来の警備を体感できる小学生向け職業体験会が募集スタート
	6.17	学研キッズネット	ALSOKの職業体験で、最新の警備を学ぼう!
	6.24	タウンぐんま	ソフトドリンクの最前線
	7.09	NHK「おはよう日本」関東甲信越	大人気! 子どもも大人も「職業体験」
	7.23	上毛新聞	ロボット「すごい」小学生19人 飲料工場見学
	7.27	Logistics Today	F I F と佐川急便、小学生19人に職業体験
	8.01	物流ニッポン	佐川急便小学生むけ職業体験 1期生須藤さん社員としてサポート
	8.02	日本流通新聞	佐川急便 職業体験で入社第1号
	8.02	カーゴニュース	佐川急便 / F I F 小学生が「物流の最前線」を職業体験 5・6年生が大型物流現場を見学、宅配便を届ける実習体験
	8.02	LNEWS	子供たち / 佐川急便で最先端の物流を体験
	8.08	輸送新聞	子ども職業体験実施 佐川急便 小学生19人が配達実習
	8.10	セキュリティ産業新聞	子供達が未来像を学習 職業体験「セキュリティの最前線」開催 ALSOK / フューチャー イノベーション フォーラム
	8.16	RBB TODAY	ALSOK 協力のもと小学生向け職業体験プログラムが開催
	8.16	東京ベイネットワーク 「Channel Bay情報局」	子どもたちが物流の最前線を体験
	8.17	リセマム	ALSOK 小学生職業体験プログラム、未来のセキュリティを学ぶ
	8.21	警備保障タイムズ	ALSOK と F I F 「セキュリティの最前線」小学生がドローンなど体験
	8.22	セキュリティナビ	小学5、6年生のキャリア教育イベント「セキュリティの最前線」 人とITが融合した未来の警備とガードマンの心得を学習
	8.27	BS日テレ「汐留TV! ~こちら、汐テレ★さきどり女子部~」	小学生がALSOKで職業体験!!
	9.03	全私学新聞	小学5、6年生が職業体験 安全安心を守る仕組み学ぶ

職業体験

NHK「おはよう日本」 関東甲信越

2016年7月9日放送



ソフトドリンクの最前線

上毛新聞

2016年7月23日付



子どもたち
レモンを使った実験をする

伊勢崎

伊勢崎市境東新井のポツカサップポロフード&ビバレッジ群馬工場（三枝裕昭工場長）で22日、工場見学

ロボット「すごい」

小学生19人
飲料工場見学

などを行う「ソフトドリンクの最前線を体験しよう！」が開かれ、県内外の小学5、6年生19人が商品の製造過程や品質管理を学んだ。

子どもたちは三枝工場長の解説を聞きながら飲料工場を窓越しにのぞいた。熱心にメモを取り、1秒間に20本の缶コーヒを生産する様子や、ロボットが段ボールをたたむ様子を見て「すごい」「天才だ」と大はしゃぎしていた。レモンを使った実験や飲料作りも体験した。

太田宝泉小6年の小沢和加さんは「初めて知ったことがたくさんあって楽しかった」と話した。太田市新田木崎町のサップロビールバイオ研究開発部も見学した。

子どもたちに働くことや産業への関心を高めてもらおうと、フューチャーイノベーションフォーラム（東京都）が主催した。

FIFと佐川急便、小学生19人に職業体験

2016年7月27日(水)

■ イベント フェューチャーイノベーションフォーラム (FIF) と佐川急便は27日、小学生を対象に宅配便の仕組みや国際物流の説明、荷物の受け渡しなど、職業体験を東京本社 (江東区) で実施した。9回目となる今回は、小学5・6年生19人が参加した。



児童たちは、国際物流、宅配便の仕組み、集荷業務などを学んだ後、実際に荷物の採寸や今回から新しく追加した電子サインを使った受け渡しを行った。さらに、大型物流施設に移動し、自分たちで採寸して送り状を張り付けた荷物をベルトコンベアに乗せ、発送する体験をした。



参加した小学6年生の男の子は「佐川急便の宅配便の仕組みが知れてよかった。苦労して運んでいたんだなと思った」と話した。

また、今回は職業体験プログラムの1回目と8回目に参加し、その後佐川急便に入社した須藤大輝氏が先生役として参加した。1回目の参加当時は中学1年生だったが、今度は先生役として出席することとなった。須藤氏は「(佐川急便に入社した理由を) やりたいことを新人のうちからできる会社だと聞いて、チャレンジできるところが決めた」と話した。

佐川急便

小学生むけ職業体験

1期生 須藤さん 社員としてサポート

佐川急便(荒木秀夫社長、京都市南区)とフェューチャーイノベーションフォーラム(FIF)主催の「物流の最前線」を佐川急便東京本社(東京都江東区)で実施した。子供たちは制服を着用し、セールズドライバ

1の仕事を、宅配便の仕組みなどの講義を受け、物流の仕事の学んだ。

9回目の今回は、東京、埼玉、神奈川、千葉、茨城の5都県の小学5、6年生、計19人が参加。これまで、延べ145人の子供たちが参加してきた同プログラムだが、中学1年の時に第1回に参加した「1期生」の

須藤大輝さん(23)が今春、佐川急便に入社。同期の3人と共にスタッフとして参加した。

佐川急便をはじめSGホールディングス(町田公志社長、京都市南区)グループのグローバルな事業展開を知ってもらうため、今回の講座では初めて国際物流をテーマとして設定。また、



クール室に保管されている直輸入のフルーツを試食した。

須藤さん(左から3人目)ら新人社員が宅配便の仕組みの講義で子供たちをサポート

集荷から配達までの宅配便の仕組みでは、ペーパーレスの観点から導入を進めている電子サインについて学習。東京本社内にある店舗に子供たちが荷物を届け

る配達実習でも、電子サインによる受領確認を行った。隣接する佐川東京ロジスティクスセンター(東京都江東区)の見学では、自動仕分け機のベルトコンベアで、自分たちが送り状を付けた荷物(おみやげ)を自らの手で発送した。

最後に、SGHDの栗和田栄一会長との質疑応答の後、修了証が授与された。子供たちは「宅配便のドライバさんたちの苦労が分かった」(小6の男の子)「宅配便が届くまでにいろいろな機械や車を使うことが分かり、勉強になった」

(小5の女の子)など、宅配便や物流への理解を深めた様子だった。

一方、須藤さんは「ディゼルと天然ガスのトラックの違いを覚えてもらったことが印象に残っている。大学4年生だった15年にOBの立場でボランティアスタッフとしてお手伝いした際、社員の方から会社の様子を出せる社風が気に入った。既に数社内定していたが、入社を志望した」と、入社に至った経緯を話した。(田中信也)

東京ベイネットワーク「Channel Bay情報局」

2016年8月16～31日放送



セキュリティの最前線

BS日テレ「汐留TV! ～こちら、汐テレ★さきどり女子部～」

2016年8月27日、9月2日放送



©BS日テレ

ホームページ

<http://fif.jp>



facebook

<http://www.facebook.com/fif.2006>



お問い合わせ先

フューチャー イノベーション フォーラム

事務局: 〒141-0032 東京都品川区大崎1-2-2
アートヴィレッジ大崎セントラルタワー15階
(フューチャー株式会社内)

TEL: 03-5740-5817

E-mail: forum@future.co.jp

Future Innovation Forum